

1～5面
■ユネスコ無形文化遺産登録に向けて 6・7面
■書写道教育の充実に向けて 8・9面
■文化人インタビュー 10・11面
■第11回手書き文字ばんざい! 12・13面
■主催書道展報告 14・15面
■文部科学省初等中等教育局長寄稿 16面

大阪市立美術館開館80周年記念 公益社団法人日本書芸院創立70周年記念

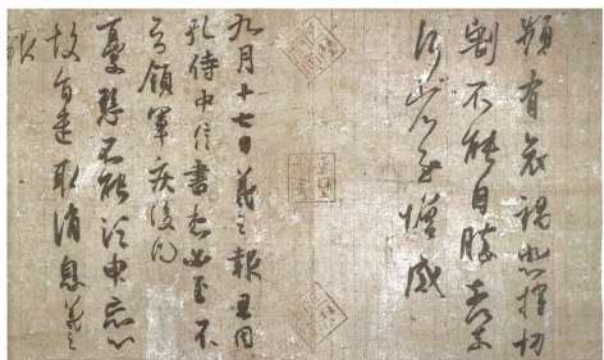
特別展

王羲之から空海へ

——日中の名筆 漢字とかなの競演

2016年4月12日(火)～5月22日(日) ※会期中、展示替えがあります。

大阪市立美術館 (大阪市天王寺区茶白山町1の82 天王寺公園内)



日本 空海「風信帖」(平安、国宝)

中国 王羲之「孔侍中帖」(東晋、国宝)

開催記念 シンポジウム

書書の未来 — 伝統と創意 —

平成28年4月23日(土)

午後1時より
午後2時
大阪国際会議場5階メインホール

お申込 はがき・FAX・Eメールで参加希望者の郵便番号・住所・氏名・電話番号・同伴者の有無(同伴者は1名まで可)をご記入のうえ、お申込ください。

はがき 〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 OMMビル7階 公益社団法人日本書芸院「記念シンポジウム」係

FAX 06-6945-4505(「記念シンポジウム」と明記してください)

Eメール info@nihonshogeiin.or.jp (件名を「記念シンポジウム 一般申込」としてください)

締切 4月11日(月)※消印有効。ただし満席になり次第締切。結果は郵送でお知らせします。

問い合わせ 公益社団法人日本書芸院

日中の漢字とかなの名筆約230点を集めた特別展「王羲之から空海へ——日中の名筆 漢字とかなの競演」が2016年4月12日から5月22日まで、大阪市天王寺区の大阪市立美術館で開催されます。

各時代の傑作 心ゆくまで

日本書芸院の創立70周年などを記念した特別展です。日中の各時代の書家が遺した傑作とともに、漢字が日本に伝わり、仮名へ変化した書史の歴史をたどれる内容になります。

4世紀東晋の能書家、王羲之の法書(手本)である「孔侍中帖」(国宝)や、初唐の大家、歐陽詢の「九成宮醴泉銘」(海内第一本)などに、書の進化を見ることができ、奈良時代に王羲之の書が日本に伝わり、平安時代に書道が隆盛を迎えます。日本最高の書家とされる空海の時代に代表作の「風信帖」(国宝)などが展示されます。また、最澄の特徴を端的に表す「久隔帖」(国宝)も展示され、両者の対照を楽しめます。

日本独自の文字である仮名の、連綿による豊かな表情にも触れていただけます。その代表が平安時代の歌人・紀貫之の書とされる「寸松庵色紙(古今和歌集)」。仮名の美しさを堪能することができます。

リレー講座も

会期中、作品鑑賞や書作に役立つ本展の「古典に学ぶリレー講座」を開催します。午後2時から30～40分程度、大阪市立美術館1階「講演会室」にて。参加無料。午後1時半開場(先着150名)。申し込み不要・当日の観覧券半券が必要。

- ◇4月24日(日)「國立故宮博物院の明代法書一祝允明・文徵明を中心に」
弓野隆之氏 大阪市立美術館学芸課長代理
- ◇4月29日(金・祝)「かな古典 見て感じて書作に生かす」
高木厚人 本院副理事長(大東文化大学教授)
- ◇4月30日(土)「日本書跡の展示概要と鑑賞の要点」
森岡 隆 本院評議員(筑波大学教授)
- ◇5月1日(日)「古典涉猟は自分探しの旅」
杭迫柏樹 本院名誉顧問
- ◇5月3日(火・祝)「墨跡について」
真神鏡堂 本院副理事長(京都教育大学名誉教授)
- ◇5月4日(水・祝)「米芾に魅せられて」
今村桂山 本院副理事長
- ◇5月5日(木・祝)「王羲之書法の継承—日本と中国—」
中村史朗 本院理事(滋賀大学教授)
- ◇5月7日(土)「何創時書法藝術基金の明清法書—王鐸・傅山を中心に」
弓野隆之氏 大阪市立美術館学芸課長代理
- ◇5月8日(日)「趙孟頫と中峰明本」
森橋なつみ氏 大阪市立美術館学芸員
- ◇5月15日(日)「明末清初の条幅から」
福光幽石 本院常務理事(奈良教育大学教授)

※講師・日程は変更の場合があります。事前に本院ホームページ等でご確認ください。

主催＝大阪市立美術館、読売新聞社、公益社団法人日本書芸院

後援＝大阪府、大阪府教育委員会、大阪市教育局委員会、NHK 大阪放送局、公益財団法人関西・大阪21世紀協会

協賛＝野崎印刷紙業協力＝日本航空

アクセス＝大阪市営地下鉄御堂筋線・同谷町線・JRの各天王寺駅、近鉄南大阪線大阪阿部野橋駅、阪堺電気軌道上町線天王寺駅前駅下車、北西約400m

開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日＝月曜日

入館料＝一般1300円(前売り・20名以上の団体1100円) 高校・大学生1000円(同800円)

※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料(要証明)。※本展は大阪市内在住の65歳以上の方も、一般料金が必要です。

王羲之から空海へ

中国の書

圧巻 王羲之の精拓13種が一堂に



欧陽詢「九成宮醴泉銘(海内第一本)」(唐)

天下の名跡の最高峰ともいわれる王羲之の「孔侍中帖」(国宝)をはじめ、「十七帖」、「蘭亭序」、「集王聖教序」などの碑帖の精拓13種が一堂に会するというのは、何といっても圧巻である。「蘭亭序」は「開皇本」や「貞观本」などの5種が、また「集王聖教序」も「三井本」をはじめとする4種の精品が展示される。「漢字とかなの競演」にとどまらず、王羲之の同一書跡の拓本の「競演」も大きな見どころとなる。

天下の絶品による眼福を



中村 伸夫

日本書芸院常務理事

(筑波大学教授)

唯一現存する

「孔子廟堂碑」も

拓本といえは、王羲之以前の楷、そして、王羲之以降の書の歴史を牽引した唐代の大家たちの絶品も出そう。特に、こ

の世に唯一のこされた「孤本」の「孔子廟堂碑」や、同系統の拓本の中でも屈指の精拓として知られる「海内第一本」の「九成宮醴泉銘」は、十分に時間をかけて鑑賞したい。

北宋以降、明末清初期までの展示では、王羲之に学んで創新を成し遂げた、書法の達人たちによる個性の「競演」が繰り広げられる。国内の所蔵機関のみならず、台北の國立故宮博物院や何創時書法藝術基金會が所蔵する傑作の数々が、私たちに眼福を与えてくれる。

本物に触れる 感動と贅沢

王羲之という一人の天才がこの世に生まれなかったら、北宋の三大家も元の趙孟頫も、あるいは明の文徵明や董其昌や王鏊も、能書の才能をかくも華々しく開花させることはできなかったに違いない、という感

王羲之「集王聖教序」(唐)
王羲之書法を学ぶ上で必須の古典として尊重されてきました。この本は北宋の拓とされるもので、自然なめらかな筆路を想像させる精拓です。著者な本ですが出版物で見ることが少なく、今回の展示は貴重な機会です。

作品介绍：
中村史朗 日本書芸院理事
(滋賀大学教授)



黒川古文化研究所蔵

概にふける参観者も生まれるに違いない。とにかく、王羲之が永らく書聖として崇拝されるゆえんを、北宋以降の名家たちによる一つ一つの展示品で確かめることになる。

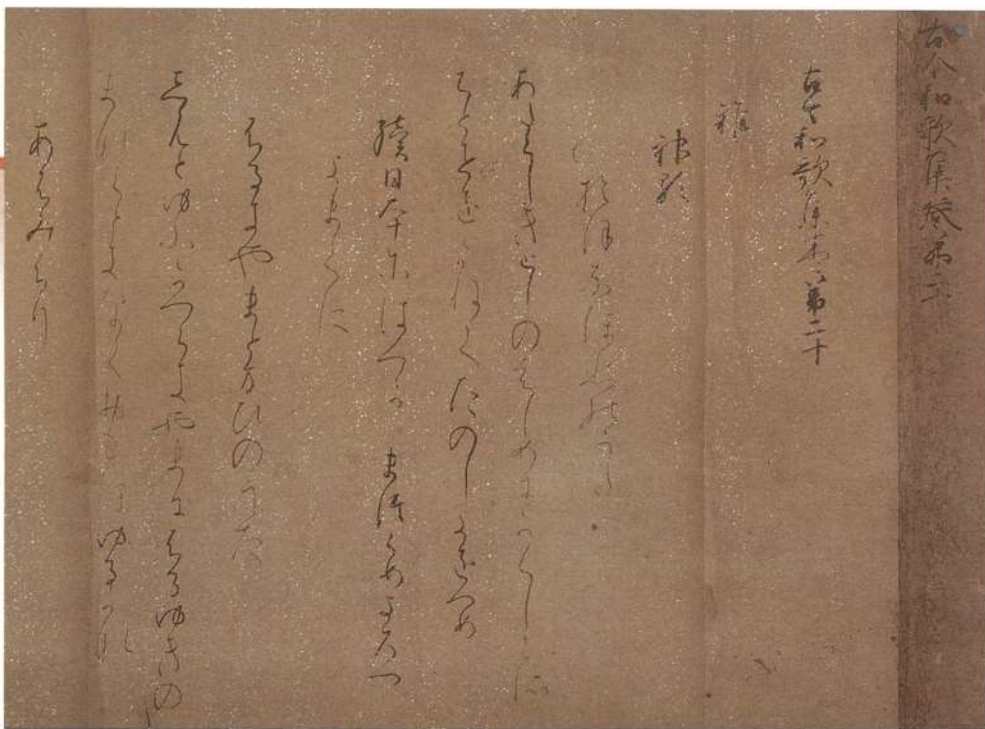
王羲之前夜の書法の実相を探る上で欠くことのできない「李柏尺牘稿」、南北朝から初唐期にかけての写経、王羲之の七世の孫にあたる隋僧智永の「真草千字文」(国宝)なども仔細に鑑賞したい逸品である。

書物の中の中国書法史上の名品が、書物を飛び出し、真実の姿で私たちの眼前にあらわれる。中国の書のすばらしさ、すこさが、感動をもつて味わえる、この上ない贅沢な機会となるだろう。

王羲之から空海へ

日本の書

日本を代表する名品たどる



伝紀貫之「高野切第一種」

(平安、国宝)

高知県立高知城歴史博物館所蔵

まず、丙戌年(686年)の現存最古の写経で、歐陽詢、歐陽通父子の書風がいち早く伝わっていたことを示す(金剛場陀羅尼経)、同じ天平写経ながら端正な(紫紙金字金光明最勝王経)と重厚な(賢愚経)(船載経)、平安時代の装飾経から良寛の般若心経まで、写経といえども多様です。

和様が美しい 三跡の書

平安中期の三跡の書は、生前から「羲之再生」と謳われた小野道風、道風に倣った26歳時の(詩懷紙)と後年の暢達(書状)が対照的な藤原佐理、和様の大成者藤原行成の書は、漢字のみならず仮名を揮毫した(屏風詩歌切)も貴重です。

実際、(稿本北山抄紙背仮名消息)から窺えるとおり10世紀末以降(女手)が進展し、11世紀半ばに高野切が出現。本展では高野切の三種各々とその同筆同系統古筆をはじめ、三色紙や敢えて草仮名を用

空海と最澄 対極も楽しんで



森岡 隆

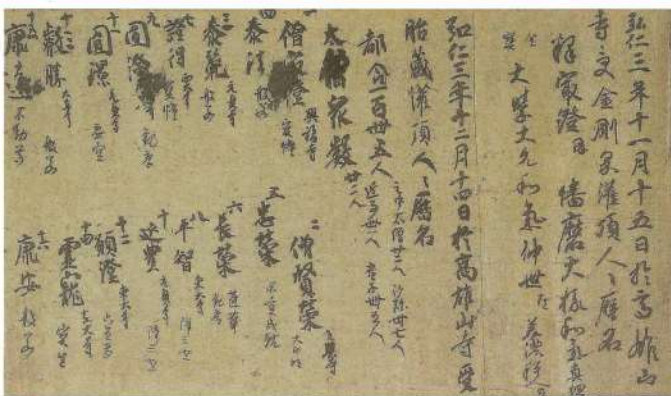
日本書芸院評議員
(筑波大学教授)

いた(秋萩帖)なども含む古筆が網羅されますが、例えば同じ(寸松庵色紙)や(継色紙)でも、各々散らし書きの異なるものが選ばれています。古筆切のみ30葉近く収められた(野辺のみどり)「(かりがね帖)」(谷水帖)はまさに「重文三大古筆手鑑」と言えます。

世尊寺家歴代 個性が際立つ

なお三代伊弉の(藍紙本万葉集)には、万葉集が編纂された奈良朝における王羲之の尊重を示す「手師」の語が記されており、それを採しつつ長巻を鑑賞するのも一興です。

平安末から鎌倉にかけての藤原俊成、定家父子と西行、鎌倉室町以降の墨跡、大字仮名の創始者とされる近衛信尹の屏風や本阿弥光悦の和歌巻・書状等の寛永の三筆、信尹の玄孫家熙による名跡臨模の手鑑、良寛の孤高の書までの1150年に亘る日本書跡の中から、学書に資する名品が一堂に集います。



空海「灌頂歴名」(平安、国宝)

空海が高雄山寺で灌頂を受けた時の人名を列記したもので、その最初に最澄の名が記されています。筆力充実、威風堂々と書き進められる書は、空海の類稀なる天賦の才と平安の高貴な気風を今に伝える日本書道史上の至宝です。

作品介绍・尾西正成

日本書芸院常務理事
(京都橋大学助教)

中国の書

王羲之から空海へ

筆路なめらかな 多彩な書風



台東区立書道博物館蔵

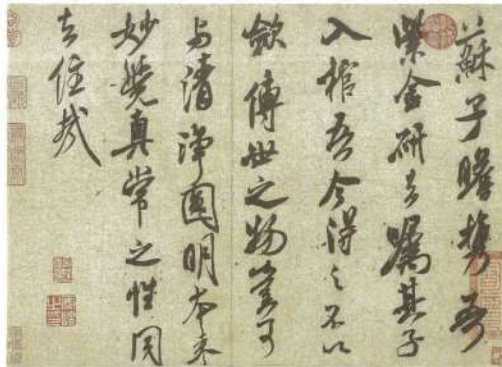
王献之
 「地黄湯帖」(東晋)
 王献之は、王羲之ほどに精密な複製が多く伝わりません。この作は後代の臨書という説もありますが、王献之の書法の実態をよく伝えるものと考えられます。点画の潤いや筆鋒の躍動から「妍媚」とも称された書風を味わいましょう。

台北 國立故宮博物院所蔵



趙孟頫
 「致中峰和尚尺牘」(元)
 趙孟頫は、禅学に心を寄せ元代きつての高僧である中峰明本に深く帰依しました。中峰明本の尺牘からはその尊崇の心情がうかがえます。これは王羲之の書の修学に余念のなかった趙孟頫が、最も自然にその熟練の書技を發揮した例と言えるでしょう。趙孟頫に批判的であった董其昌もこの作には脱帽しています。日本にある中峰明本尺牘と合わせて鑑賞できるまたとない機会です。

台北 國立故宮博物院所蔵



王鐸
 「行書贈大年家丈」(清)
 これは日本で初めて公開される王鐸の長条幅作品です。文語という明末に行われた応酬の形式によるものです。氣力が充実した書きぶり、綾本に墨を盛り上げるように書き、篆隸書の質感をそなえた重厚な筆画が見るものを圧倒します。

米芾
 「紫金研帖」(北宋)
 米芾と蘇軾の交流は約二十年にわたって続きました。これはその最後のやりとりを記録する一帖です。雄大な構えの行書を主とし、八方に筆力が及ぶような迫力があります。軽妙な味わいの尺牘と比較しながら鑑賞してみましょう。

台北 何創詩書法藝術基金會所蔵



祝允明
 「草書七言律詩」(明)
 祝允明は明代の蘇州書壇の中心人物で、奔放な草書は絶大な支持を得ました。内面を吐露するかのような書きぶりは、書が「個性」の表現としての性格をより強めたことを示しています。代表作の一つが今回来日したこの尺牘です。



台北 國立故宮博物院所蔵

中国の書作品介绍：中村史朗 日本書芸院理事 (滋賀大学教授)

王羲之が生んだ書の典型

福光幽石
 日本書芸院常務理事 (奈良教育大学教授)

王羲之は、東晋王朝の初頭、琅琊郡臨沂(現在の山東省東南部)の名門貴族の子として生まれました。父王曠を早くに亡くしたものの、従伯父の王敦や王導らの引き立てを得るなど、周囲から将来を囑望されておりました。しかしながら王羲之はというと、中央政治への野心は無く、任官のすすめを断り、辺境の軍官を志願するといった気概の持ち主でした。

蘭亭会が開かれた2年後、王羲之は地方官を辞職します。そして没するまでのおよそ10年間、会稽の地で随分生活を送りました。このころ知人と応酬したいくつもの書簡が、「十七帖」などの法帖として模刻され、後世の多くの書人たちに行草書の典型として学ばれてきました。はたして、羲之の書をまったく習わずに行草書をよくした書人はいるのでしょうか。おそらくいないでしょう。王羲之の書は、今日に至ってもなお、一つの書法の道標となっており、私たちに目を開かせてくれます。このことが、王羲之の書が中国書法の最高峰と称せられるゆえんと言えらるるかもしれません。

王羲之の書いた文字の造形やその筆意は、一見すると普通で、当たり前のように感じられます。それは私たちの書における美の基準が、王羲之の書法の上にあるからなのでしょう。それなのに、厳密に臨書しようとしても、なかなかそっくりに書けません。王羲之の書の難しさ、奥深さが思い知らされます。今一度ここで、王羲之の名品に真正面から立ち向かってみませんか。

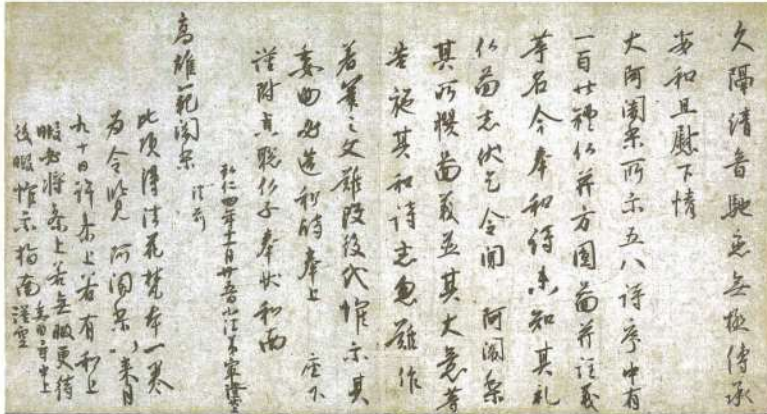
王羲之から空海へ

日本の書

情緒豊か自在な線 気高く

最澄

「久隔帖」(平安、国宝)
最澄の自筆の書状。穏やかな中に造形の確かさをみせるその書は、当時の羲之書の影響力の高さを伝えています。どこまでも澄み切った線は凛として、最澄の崇高な精神性が筆端まで行き届いているように、品格高邁な名作です。



奈良国立博物館蔵

伝小大君

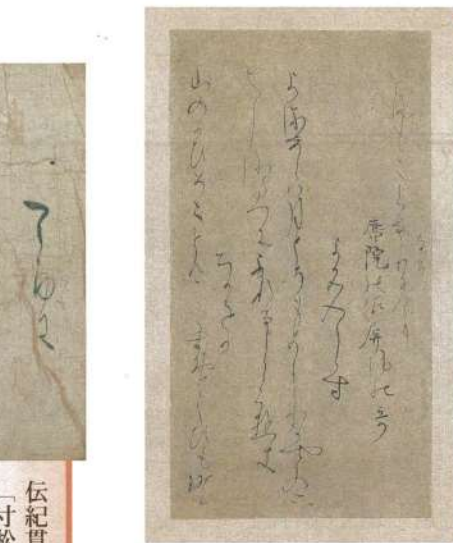
「香紙切」(平安)
散逸歌集「麗華集」を書いた古筆切。香り高い丁子で染めた紙に書かれたことからこの名で呼ばれます。筆先鋭い強靱な線で、大小、緩急、広狭など変幻自在な表現がすばらしく、多彩な仮名美の魅力を凝縮したような逸品です。



春敬記念書道文庫所蔵

藤原佐理

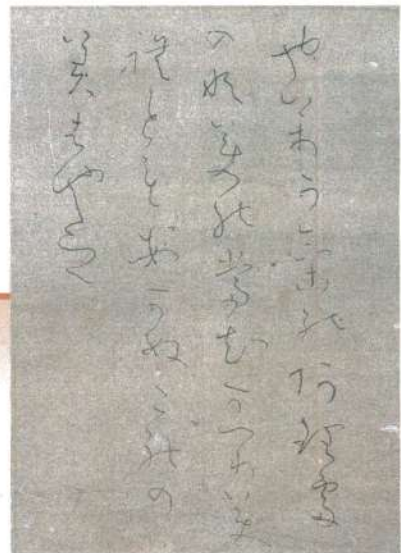
「国申文帖」(平安)
佐理の優れた技量と感性が存分に発揮された書。次々書きすすめられる筆致は瀟々ことなく、その息使いまでも表現され見る者の心を捉えて離しません。気分の高揚をすべて筆先に込めた自由奔放な運筆は圧巻です。



個人所蔵

伝紀貫之

「寸松庵色紙」(平安)
大徳寺龍光院の寸松庵に一部の断簡が伝来したことからこの名で呼ばれます。美しい唐紙に書かれ、自然な表現の中に多様な変化を見せる「散らし書き」が見事です。平安貴族の優雅さを伝えるようなこの書は、古来より最も格調の高い書として愛好されています。



西新井大師所蔵

良寛

「和歌(やまかげの)」(江戸)
良寛は江戸後期の越後の禅僧。脱俗の生涯を送り、多くの書や詩を残しました。その無欲恬淡な境地の書は、日本の美意識に合致して見る者を魅了します。外連味のない運筆自在な線は沈着として、心に沁みる書の世界を展開しています。

日本の書作品介绍：尾西正成 日本書芸院常務理事 (京都橘大学助教)

福光幽石
日本書芸院常務理事 (奈良教育大学教授)

悟る「規矩」空海使唐遣

空海は、宝亀5年(774年)、讃岐国多度郡(現在の香川県善通寺市)の地方貴族の子として生まれ、母方の叔父阿刀大足のもとで学問の手ほどきを受けました。18歳で都の大学寮明経科に入り、主に儒学を学びます。ところが空海は、このころに一人の沙門と出会ひ仏法を授けられ、それが機縁となって出家を志すようになりました。

23歳のときに空海は、「三教指帰」の原案となった「靈誓指帰」を著します。この文をもって空海は、仏教の教えを第一とし、儒学との訣別を宣言しました。そして正規の僧ではない、私度僧となりました。

延暦23年(804年)、空海は正規の僧たるべく具足戒を受け、遣唐使として長安に向かいました。そして聖賢を發揮し、密教界最高の地位にいた僧侶惠果から、正統な継承者として密教の大凡を授かります。空海は在唐中、仏法だけでなく、王羲之をはじめとした多くの書に触れ学んだ後、留学期間を大幅に繰り上げて帰国しました。このとき空海は、唐から膨大な量の経巻や法具、仏画や仏像、そして数々の名筆を持ち帰り、その後嵯峨天皇に献上しています。空海は唐人から書法を学ぶ中で、書の「骨法」を習ひ、「規矩」を悟ったといひ、帰国後も独自の書風を探索し続けました。入唐前の、仏教への志が兆しはじめた血気盛んな空海の息づかいや、帰国後の円熟した筆意を、今回、ぜひ間近で感じてみたいものです。

さらなる発展目指す

つなごう日本の書道文化

ユネスコの無形文化遺産に

書道界は書文化の発展と普及に向けて、今、新しい取り組みを展開している。平成27年(2015年)には、「日本の書道」を国連教育・科学・文化機関(ユネスコ)無形文化遺産に登録するための推進活動が本格化した。その前年には、書道界が一丸となって小中学校、高校の授業で書写書道教育を充実させるよう求めた「書写・書道教育に関する要望書」を文部科学大臣に提出し、関係者らの努力で100万人近くの

署名が集まるなど、大きな成果をあげた。こうした動きに、書道国会議員連盟やマスコミなども積極的に協力し、新たな潮流をバックアップする態勢が整ってきた。

今回はユネスコ無形文化遺産登録の意義や書道教育の充実化を支援する書道国会議員連盟の総会、広島県熊野町の町立小学校で行われている低学年からの毛筆授業などを紹介する。



日本の「ユネスコ無形文化遺産」登録年表

- 2003年 無形文化遺産の保護に関する条約採択
- 2006年 4月に同条約発効
- 2008年 ▽能楽▽人形浄瑠璃文楽▽歌舞伎
- 2009年 ▽雅楽▽小千谷縮・越後上布▽日立風流物▽京都祇園祭の山鉦行事▽飯島のトシドン▽奥能登のあえのこと▽早池峰神楽▽秋保の田植踊▽チャッキラコ▽大日堂舞楽▽題目立▽アイヌ古式舞踊
☆中国書法
- 2010年 ▽組踊▽結城紬
- 2011年 ▽壬生の花田植▽佐陀神能
- 2012年 ▽那智の田楽
- 2013年 ▽和食：日本人の伝統的な食文化
- 2014年 ▽和紙：日本の手漉和紙技術
☆11月、書家3人が文化庁長官とユネスコ文化遺産登録について話し合う
- 2015年 ☆日本書道ユネスコ登録推進協議会発足
(書道のほかに来訪神行事、和服、伝統構法、将棋、俳句などが登録を目指す。山・鉦・屋台行事については2016年秋に登録の可否が決定)

登録後、和食ブームに

平成15年(03年)のユネスコ総会で「無形文化遺産の保護に関する条約」が採択され、わが国の無形文化遺産としては能楽、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎などがすでに登録された。平成25年(13年)には「和食 日本人の伝統的な食文化」も登録を受け、日本食ブームを起した。だが、わが国の歴史、文化、教養、伝統を支えてきた知の遺

ユネスコ無形文化遺産の登録を目指す動きが世界各国で活発になっている。有形の文化遺産や自然遺産などを対象にした「世界遺産」の枠組みに入りにくい、芸能や社会的習慣、祭祀、伝統工芸技術など「無形」のものを保護し、未来に引き継ぐのがねらいだ。

ユネスコ無形文化遺産登録へ活動

推進協議会が発足 一丸に



(出典：農林水産省 和食ガイドブック)

平成21年(09年)に「中国書法」がユネスコ無形文化遺産に登録されている。日本書道はわが国特有の優美な和様を前面に出し、「日本の書道文化」書き初めを特筆して」とアピールしている。現在、条約締約国は163か国に上り、推薦件数が増加中で、順番待ちの状況のため、「日本の書道」が登録を受けるのは早くても、平成32年(20年)になりそうだ。

産である「日本の書道」は、まだ登録にきつていない。こうした現状の中、日本書芸院の高木聖鶴最高顧問(文化勲章受章者)、日比野光鳳最高顧問(文化功労者・日本書芸院会員)、井茂圭洞最高顧問(日本書芸院会員)の3人が呼びかけ人とな

って、ユネスコ無形文化遺産登録への動きが始まった。平成27年4月に「日本書道ユネスコ登録推進協議会」が発足。全国書芸振興会、全日本書道連盟、日本書芸院とわが国を代表する団体が名を連ね、書道界あげての取り組みを展開している。

優美な和様アピール

日本書道ユネスコ登録推進協議会

- 【発起団体】公益財団法人全国書芸振興会、公益社団法人全日本書道連盟、公益社団法人日本書芸院
- 【特別顧問】河村建夫(衆議院議員、書道国会議員連盟会長)、松浦晃一郎(第8代ユネスコ事務局長)、朝比奈豊(毎日新聞社代表取締役社長、毎日書道新聞理事長)、老川祥一(読売新聞グループ本社取締役最高顧問兼主筆代理、読売書法会会長)、渡辺雅隆(朝日新聞社代表取締役社長)、熊坂隆光(産経新聞社代表取締役社長、産経国際書会会長)、佐藤雄二郎(共同通信社代表取締役社長)
- 【顧問】高木聖鶴(文化勲章受章者)、日比野光鳳(文化功労者、日本書芸院会員)
- 【会長】荒船清彦(全国書芸振興会会長)
- 【副会長】井茂圭洞(日本書芸院会員)、津金孝邦(全国書芸振興会理事長)、樽本樹郎(全日本書道連盟前理事長・顧問)、星弘道(同理事長)、石飛博光(同副理事長)、大井錦亭(同顧問)、田中風柳(同顧問)、吉川蕉仙(日本書芸院理事長)、黒田賢一(同副理事長)
- 【総務部長】高木聖雨(全国書芸振興会理事)
- 【委員】清水透石(全国書芸振興会理事)、田中節山(全日本書道連盟常務理事)、仲川恭司(同常務理事)、伊藤成石(同理事)、辻元大雲(同理事兼事務局長)、長野竹軒(同理事)、舟尾圭碩(日本書芸院常務理事)
- 【事務局長】坂本敏史(全国書芸振興会事務局長)、松本薫(日本書芸院事務所長)

(平成27年8月1日現在)

世界に誇れる書文化

日本書芸院最高顧問 井茂 圭洞



日本の伝統 後世へ橋渡し

「日本の書道」のユネスコ無形文化遺産登録推進の中心になって活動している井茂圭洞・日本書芸院最高顧問(日本書芸院会員)に登録の意義などを語ってもらった。

ユネスコ無形文化遺産への登録を提唱されたきっかけは

平成24年に日本書芸院会員に就任して、翌年、お祝いの会を開いていたときま

をしゃべろうかと、考えました。西洋文化が著しく進み

日本の伝統文化への危機感も抱いていました。また、

スマートフォンやパソコンの普及なども手伝って、書道や文字文化が衰退するのではないかと意識もあり、書道文化を後世に残さなければという思いがこみ上げてきました。自分が書道を後世に伝える橋渡しができたらと……。そんな思いを高木聖鶴、日比野光鳳

という趣旨を伝えたとこ
ろ、青柳正規長官から「(要
望の主体は、個人ですか、
団体ではないんですか)」「世
論が盛り上がりませんか」
とご指導を受けました。実
現にこぎつけるには書道界
全体が、全書人が、こぞつ
て協力する体制が必要だと
痛感しました。

漢字は中国が発祥の地と
いう趣旨を伝えたとこ
ろ、青柳正規長官から「(要
望の主体は、個人ですか、
団体ではないんですか)」「世
論が盛り上がりませんか」
とご指導を受けました。実
現にこぎつけるには書道界
全体が、全書人が、こぞつ
て協力する体制が必要だと
痛感しました。

風は一般に「唐様」といわ
れていますが、その後、平
安中期に入ると、日本人な
らではの美意識が書の世界
にも取り入れられ、小野道
風ら「三跡」が登場します。
優美な「和様」といわれ、
日本特有の書法を完成させ
ました。ただ、私は空海の
「灌頂記」(「灌頂歴名」)
を見て、細い字で書いた
文字の空間や線に、すでに

ものです。最初の仮名は漢
字の音訓をとった万葉
仮名。7、8世紀に誕生
しました。その後、楷書
の一部分をとって片仮名が
でき、漢字の草書をより簡
略化して平仮名が現れま
す。そして、11世紀中ごろ
の「高野切古今和歌集」で
仮名の書体が完成したと、
小松茂美先生はおっしゃっ
ています。

有の美意識といえるでしょ
う。西洋美術史の高階秀爾
先生(大原美術館館長、東
大名誉教授、文化勲章受章
者)も平仮名を日本独自の
曲線文字とおっしゃってい
ます。

いわれますが、漢字書には
漢字書の和様化の歴史があ
る。だから、仮名に限らず
日本書道全体が登録に向け
て歩んでいこうということ
になりました。そして、全
国書美術振興会、全日本書
道連盟、日本書芸院が発起
団体となって「日本書道ユ
ネスコ登録推進協議会」を
発足させることができました。

日本人特有の美があるの
感じますね。このようにし
て日本の漢字は地肌のやわ
らかさや、行の流れなどに
独自の美を育んでいきま
す。

仮名は日本で生まれた
美は「余白」といわず、必要
な白さであるから「要白」
と呼びますが、その美しさ
ですね。これはもう日本特
徴です。

「古今和歌集」などの和歌
も生み出しました。日本文学
に残した功績は計り知れな
い。また、日本人は漢字や
書に励むことよって、教
養や文化を身につけていま
した。そういう意味では、
書道文化の果たした役割は
とてつもなく大きいです
ね。それにわれわれが住ん
でいる家の床の間にも書の
掛け軸がよく飾られていま

す。建築文化も含めて、さ
まざまなところに日本の書
道が溶け込んでおり、日本
人の生活や文化のすみずみ
にまでいきづいているので
はないでしょうか。

全書人の協力が必要

井茂先生も、高木先生も、日比野先生も仮名書道の大家。当初は、仮名書道の登録を目指されたという思いがこみ上げてきました。自分が書道を後世に伝える橋渡しができたらと……。そんな思いを高木聖鶴、日比野光鳳

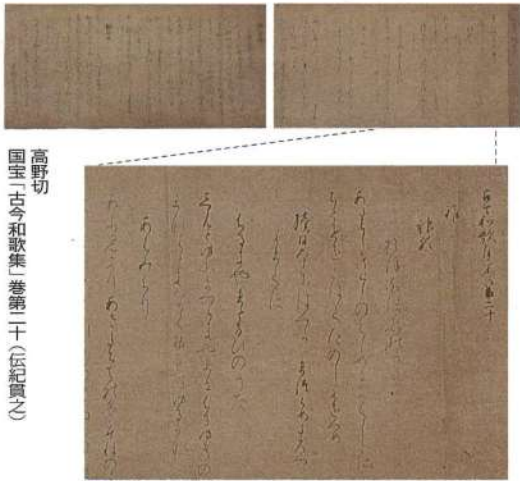
平成26年の11月に文化庁を訪ねました。高木先生、日比野先生と私の3人の連名で仮名書道をユネスコ無形文化遺産に登録できれば

仮名特有の流麗美

「中国書法」が平成21年に、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。中国の書とは違う日本書道の魅力は

わが国の先祖は中国から移入された漢字と出会いました。平安初期には空海ら「三筆」が現れ、中国書法を学んで日本に書道文化を根付かせました。三筆の書

古今和歌集の写本「高野切」



高野切 国宝「古今和歌集」巻第二十(仮名貫之)

(高知県立高知城歴史博物館所蔵)

編纂後記

井茂圭洞最高顧問の書に対する情熱は尽きない。最近は弥生時代の銅鐸絵画の線描にも新鮮な視線を注ぐ。インタビューの中で「これは私の持論というか、感じたことですが」と前置きしながら、「平成26年に東京国立博物館で開かれた『日本国宝展』を鑑賞したときの印象です。神戸市の桜ヶ丘遺跡で出土した銅鐸などに描かれた絵画の線が

面白かった。鳥や人の線描を見て、洗練された曲線美に驚きました。豊潤にして温かみがある。中国の漢字の始祖である甲骨文字とは違う線の描き方ですね。そのあたりに、仮名の曲線に通じる日本人のアイデンティティがあるのじゃないかと、熱く語った。一見、書とは関連性のないような弥生銅鐸に描かれた線や空間処理をも凝視する追求心には驚かされた。

低学年 毛筆書写に親しむ

熊野町 授業で驚くべき成果



書道関係者らが熱心に見守った

姿勢正しく凜と集中

「PPG」を実践

全員が集中している。

授業を指導したのは佐城恵

45分間の授業は姿勢を正すことから始まった。「足はペタン(P)床の上」「背をピン(P)と立てる」「いすの机の間はクー(G)業が組まれておの(の)日は、

筆の生産量全国一を誇る広島県熊野町は、平成22年度から町内全小学校(4校)で、1、2年生の授業に「低学年書道科」を取り入れる画期的な書道教育を推進している。現行の学習指導要領にない試みは、各方面から注目を集め、27年7月には、文部科学大臣が視察に訪れるなど教育関係者

の視線も熱い。日本書芸院書写書道教育推進部など書道関係者らも11月5日に行われた町立熊野第一小学校2年生の授業を参観し、「素晴らしい授業に感動した。改めて書写の持つ教育力を認識した。熊野の取り組みを全国に広めたい」などと高揚して話していた。

「手」の書き方について学習した。

佐城教諭が「きょうは、そのりを勉強します」と説明して黒板に「手」の字を書いた。「さて、手の字の中で、そのりを使うのは何画目でしょう」と高い評価をしていた。

課題解決の勉強にも

参観した書道関係者らは「子供たちは自分の作品を理解して、いいところ、悪いところを自分の言葉で説明できるようにになっていた。とても密度の高い授業だった」「児童が自分の作品を振り返っているのが素晴らしい。書の技術だけでなく、課題解決や発表能力を育む学習にもなる」と高い評価をしていた。

学習の結果

学力が大幅アップ

生活態度の向上で

熊野町が平成22年度に導入した「低学年書道科」は、最初の3年間を試行期間としていた。このため、

熊野町が平成22年度に導入した「低学年書道科」は、最初の3年間を試行期間としていた。このため、学力が大幅アップの大きな成果を生んでいる。

同町教委は3年目の平成24年11月、成果を検証するアンケート(対象・児童882人、保護者696人、教員56人)を実施した結果、低学年書道科を経験することによって①集中力が身についた②正しい姿勢が取れるようになった③落ち着いて物事に取り組めるようになった④3年生からの毛筆書写に円滑に入れるようになった⑤といった成果が明らかになった。また、心配さ

平成27年度の全国学力・学習状況調査(対象・小学6年生、中学3年生)では、同町の小学校は5教科平均値で広島県を上回り、同町の中学校は全国トップレベルの結果となった。この結果について、林保町教育長は「授業改善の大前提として、書道をする時の姿勢や精神を大切にしてきた成果が影響しているのではないかと話している。



PPGの姿勢が基本

低学

「書道国会議員連盟」総会



約80人の国会議員が超党派で加盟する「書道国会議員連盟」の総会が、平成27年6月18日、衆議院第一議員会館東京都千代田区で開かれた。写真：小坂憲次・元文部科学大臣が、「書写・書道教育に関する要望書」の提出を受けて、書道国会議員連盟として文科省、文化庁と連携して進めていることなどを報告した。その後、書道団体の代表が、日本書道のユネスコ無

「書教育の仕組み 考えたい」

形遺産登録に向けて「日本書道ユネスコ登録推進協議会」を設立したことを伝え、総会に参加した議員らに理解と協力を求めた。

小坂・元文科大臣の挨拶に続いて、「書写・書道教育推進協議会」の中心メンバーとして活動してきた荒船清彦・全国書美術振興会会長が「小学校1、2年生から毛筆を取り上げてほしい。その効果を

ユネスコ登録に尽力を

た井茂圭洞・日本書芸院最高顧問（日本書芸院会員）が日本書道の歴史や仮名について説明した後、「仮名文字の線は日本人のアイデンティティである」とユネスコ登録の意義を唱えた。

文科省初等中等教育局教育課程課の合田哲雄課長も登壇し、「小学校の低学年から毛筆写を入れる」ということについては中教審でこれから専門的な議論をさせていきたい」と話した。

その後も、議員からの質疑が相次ぎ、大島章議員が当議連として、日本人の生き方の中に書というものをきちっと位置づける教育の仕組みというものを考えたいかなければならないと締めくくった。



「手」の文字でそりを指導

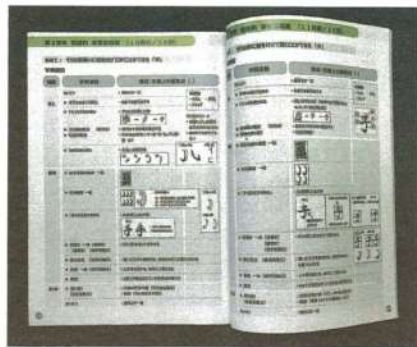
「PPG」を実践
45分間の授業は姿勢を正すことから始まった。「足はペタン（P）床の上」「背中をピン（P）と立てる」「いすの机の間はグー（G）」の合言葉から名づけた「PPG」を実践。しゃきつとした姿勢のせいか、教室は凜とした雰囲気になる。先生の指示や問い掛けには必ず「ハイ！」と小気味よい返事が返る。私語などは一切なく、

授業を指導したのは佐城恵子・町費負担の書道科専任教諭と、同組担任の手柳美子教諭。1、2年生はともに教育課程外で年間15回の書道科授業が組まれており、この日は、4月から始まった授業の10回目当たる。これまで、▽字の大きさ、太さに気をつける▽曲がりの筆使い▽字形を整える――などを学んできており、今回は「その筆使いに気を付けて書く」ことができる

自主 テキスト

学習指導要領では、国語の書写で毛筆を学ぶのは3年生からとなっている。熊野町では、2年生の毛筆授業が年間15回あることから、計画的な教材が必要であると考

た。このため、「低学年書道科」用に、教科書に代わる自主教材を作成した。写真：「



とができる▽斜めに折れることができる――に到達するまでの順序を実践に即して展

開している。各回とも学習活動のテーマを掲げ、指導・支援上の留意点などをきめ細かく記している。

第2学年は左払いの筆使いから始まり、▽力を抜いたり、入れたりと書く▽曲がりの筆使い▽そりの形▽点の筆使い▽つながりに気をつけて書く▽組み立て方を考えて書く――など、各回ごとに進んで行き、最後は結びの筆使いに気をつけて書くというレベルまで到達できるようにしている。ねらいに応じて「山」「三」「大」「千」「毛」「手」「学」などの文字を選んで指導している。

実践が生んだ指導法

全国にも類のない教材

佐城教諭が「きょうは、そりを勉強します」と説明して黒板に「手」の字を書いた。「さて、手の字の中で、そりを使うのは何画目でしょう」

密度の高い授業だった。「児童が自分の作品を振り返っているのが素晴らしい。書の技術だけでなく、課題解決や発表能力を育む学習にもなる」と高い評価をしていた。



PPGの姿勢が基本

書道科専任教諭らが作った「熊野町低学年書道科年間指導計画・学習指導案」で、全国に類のない実践教材といえる。

第1学年の場合、1〜4回目は水を使った授業から始める。▽筆を使って線を書く▽面の太さを変える▽面の向きと長さをはっきり見て書くなどの学習からスタートし、5回目から墨の授業に入る。そして▽字の形に気をつけて書くことができない――に到達するまでの順序を実践に即して展

心温か

手書き文字は書き手の人柄や心の機微を伝えます。人を引きつけるその魅力について、各界で活躍する方々に語ってもらいました。



もりしま・ひろあき
1972年、広島市生まれ。東海大一高校から91年にヤンマー(現セレッソ)入団。スピードと豊富な運動量を誇り、W杯では98年入大会、2002年日韓大会で日本代表入りするなど、ミッドフィールターとして活躍。日本代表出場試合で12得点。

毛筆を持つことにはないのですが、たまにファンの方からの要望で、筆ペンでサインをすることがあります。
プ口入り後はしばらくの間は、サインを求められると、名前を覚えてもらいたくて、楷書で分かったり、すく書いていました。ところが、当時のネルソン吉村監督から「これではだめだ。サインらしくない」と言われて、崩した書き方を一生懸命考えました。
数字の「3」と「6」で表す「森」、「鳥」の「光」の組み合わせをまぜ、作り直した。その下に「Cerezo OSAKA」とチーム名

を配して、全体のバランスを取って完成です。現役時代は右横に背番号「8」も添えていましたが、2008年シーズンを最後に現役引退してからはやめていきます。背番号はあくまで現役選手のもので、数字「1」文字「1」をいとも大切なものです。また、サインをした相手の方に、「その日の思い出として大切に頂きたいので、日付を必ず入れるようにしています。文字と言えは、今に至るサッカー人生の道しるべとなった一枚の色紙があります。しるされてるのは「心 技 体」。
(左面に続く)

書や絵を好んだ父の影響で、幼いころから書を身近に感じて育ちました。家のそこいらに拓本をもとにした手帖帖があり、パラパラとめくってはパラエティ豊かな書体を目を奪われたものです。床の間によっかかっていたのは、江戸期の文人画家・書家である池大雅の書の掛け軸。子ども心に「暴れたような字だなあ」と印象は強烈でした。ただ、そうした書に接していた方、自分の字にコンプレックスがあり、積極的に書くことはなかったですね。
改めて書と接点を持ったのは、大学で美術史を専攻し、文人画研究を始めてから。絵師であり俳人である与謝蕪村の研究に打ち込み、絵と俳句の総合芸術たる俳画に出会いました。蕪村の書は個性的で、永字八法のような書のルールも、筆圧の強弱もおかまいなし。

筆を動かし 心身浄化

和様の連綿とした書体とも違う。わざと道具に任せて書いたような、面白さがありました。それが、略筆の絵と相まって独自の世界を成立させている。中国の思想に「書画一致」がありますが、絵画と同じように書にもしっかりと造形性があることに、蕪村を通して思い至ったのです。
円山応挙研究に進んだのも、文人画を探求する上で、対極にある写生画を知る必要があったから。図書館や博物館の長を務め、文化財のデジタルアーカイブ化に取り

組む現在まで、どこかで書や書物に関わってきました。京都国立博物館の書のコレクションは日本有数です。国宝や重要文化財がずらりと並ぶ展示は見事です。私は奈良、平安時代の写経が特に好きで、いつも足を止めて見入ってしまいます。よくこんなきれいな字が書けるな、という驚きとともに、筆を持つ人が、書きながらビュンになっていく様子が時空を超えて伝わってきて、先人への敬意を覚えます。
私自身、仕事などで忙しく、身辺がごちゃついてくると、「書を書きたいな」と思い立ちます。すずりを出すのも省略して、墨汁を筆につけてコピー用紙の裏などに書くのですが、無心で筆を動かしているうちに、心身が浄化される感覚がありますね。
「墨は五彩を兼ねる」といわれます。モノトーンの墨絵にもあらゆる自然の色彩が詰め込まれ、見る人の中で、豊かな色味を再現する魔力が墨にはあります。最近パソコン全盛ですが、パソコンの

文字はだれが打っても同じ形、同じインクの色で没個性です。書は、書き手の思い通りに筆が運ぶ場合もあれば、道具の方が勝手に動いてしまう場合もあり、その折衷もあって、一文字一文字に「気」のよつなものが宿ります。
もし、すべてがパソコンの文字に置き換わり、書の世界が失われてしまったら、私たちは膨大な量と量の「何か」を捨てることになる。現れるのは、色のない、単調で無味乾燥な世界でしょう。

私が真剣に「文字」と向き合うようになったのは、スポーツニッポン新聞社の記者に採用されてからです。当時はもちろん、原稿用紙に手書きですから、一枚に1行18文字で3行だったかもしら。そこに一生懸命書いても、デスクの修正や削除が入って、残る少ない文章はたった1行あるかないか。それだけに、真剣になりました。
藤本義一と結婚してから、私もエッセイなどを書く機会が増えました。2人の女の子の育児と、家で仕事をしている夫の世話など主婦業の傍らですから、自分の部屋の鏡台兼机に向かうのは、家族が寝静まった深夜になりました。新聞社時代のくせで、ずっと鉛筆と消しゴムを使っています。

文章を修正する時には、必ず消しゴムで消してから、書き直してました。線を引いて消したり、挿入するのが嫌だったんです。そんな性格は文字にも表れていて、こう見えても几帳面な女性らしい、読みやすい文字だと言われます。(笑)
2014年春に、藤本の直筆の原稿やゆかりの作品、愛用の万年

書や絵を好んだ父の影響で、幼いころから書を身近に感じて育ちました。家のそこいらに拓本をもとにした手帖帖があり、パラパラとめくってはパラエティ豊かな書体を目を奪われたものです。床の間によっかかっていたのは、江戸期の文人画家・書家である池大雅の書の掛け軸。子ども心に「暴れたような字だなあ」と印象は強烈でした。ただ、そうした書に接していた方、自分の字にコンプレックスがあり、積極的に書くことはなかったですね。
改めて書と接点を持ったのは、大学で美術史を専攻し、文人画研究を始めてから。絵師であり俳人である与謝蕪村の研究に打ち込み、絵と俳句の総合芸術たる俳画に出会いました。蕪村の書は個性的で、永字八法のような書のルールも、筆圧の強弱もおかまいなし。

佐々木 丞平氏 京都国立博物館館長



ささき・じょうへい
1941年、兵庫県姫路市生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程修了。京大教授、同大附属図書館館長、同大文学書館館長などを経て2005年から現職。「円山応挙研究」で日本学士院賞受賞。

組む現在まで、どこかで書や書物に関わってきました。京都国立博物館の書のコレクションは日本有数です。国宝や重要文化財がずらりと並ぶ展示は見事です。私は奈良、平安時代の写経が特に好きで、いつも足を止めて見入ってしまいます。よくこんなきれいな字が書けるな、という驚きとともに、筆を持つ人が、書きながらビュンになっていく様子が時空を超えて伝わってきて、先人への敬意を覚えます。
私自身、仕事などで忙しく、身辺がごちゃついてくると、「書を書きたいな」と思い立ちます。すずりを出すのも省略して、墨汁を筆につけてコピー用紙の裏などに書くのですが、無心で筆を動かしているうちに、心身が浄化される感覚がありますね。
「墨は五彩を兼ねる」といわれます。モノトーンの墨絵にもあらゆる自然の色彩が詰め込まれ、見る人の中で、豊かな色味を再現する魔力が墨にはあります。最近パソコン全盛ですが、パソコンの

藤本 統紀子氏 エッセイスト



ふじもと・ときこ
1935年、神戸市生まれ。大阪女子大学(現大阪府立大学)学芸学部を卒業後、スポーツニッポン新聞社文化部勤務を経て、大学時代からの友人、作家・藤本義一氏と結婚。エッセイストやタレントとして活躍。児童館「浜風の家」(芦屋市)を運営する「社会福祉法人のぞみ会」理事長。

筆などを集めた記念館「藤本義一の書齋」を兵庫県芦屋市に開設しました。そこで一部を見て頂けますが、藤本の文字は右下がり、とても絵画的といえますが、表情豊かです。いつも原稿用紙を斜めに、400字の升目をきれいに埋めていました。
藤本は連載を何本も抱えていたから、移動の車の中でも書いていました。大阪市の読売テレビ制作の深夜番組「11PM」の司会を務めていた当時、本番前の打ち合わせ中のことです。番組スタッフの説明に相づちを打ちながら、原稿用紙にペンを走らせているのを見た時は、私も驚きました。本人は、「おれは聖徳太子だから」と冗談を言っていました。
12年に藤本が亡くなってから、高校時代の日記が出てきたのですが、そこに残されていた文字は、実は女性っぽい小さな文字だったので、家族みんなびっくりしたんです。作家としての創作に打ち込むうちに、文章を書くこと、文字を書くことに対する姿勢が変わったのでしようか。文字はその「人」を表しますから。
律義な藤本は、頼まれると揮毫を断らない人でした。私もテレビに出演していた当時は求められて、書かせて頂きました。だから、筆ペンと落款はいつも持つようにしていました。よく書いた言葉は、「人生一場の舞」。「職人と呼ばれる書き手を関西から育てたい」という藤本の遺志を継ぎ、15年に現代小説とSFを対象にした「藤本義一文学賞」を創設しました。第1回は、1000点をを超える応募を頂きました。ここから、新たな才能が巣立ってくるのを楽しみにしています。

記者時代から鉛筆で

文章を修正する時には、必ず消しゴムで消してから、書き直してました。線を引いて消したり、挿入するのが嫌だったんです。そんな性格は文字にも表れていて、こう見えても几帳面な女性らしい、読みやすい文字だと言われます。(笑)
2014年春に、藤本の直筆の原稿やゆかりの作品、愛用の万年

手書き

5人が語る

森島 寛晃 氏
セレッソ大阪アンバサダー

(右面から続く)
書いてくださったのは、広島・大河フットボールクラブの大先輩で、小学生のころから憧れていた元日本代表選手の木村和司さんです。1995年の冬、私がJリーグデビューする直前、現役引退を控えた木村さんとの対談企画があり、その席で書いてくださいました。

向上心を持ち、より高度なスキルを磨き、ピッチでの厳しい戦いに耐えうる体を作ることの大切さを、力強い文字から教えられました。その色紙は、自らのユニホームなど、記念の品を飾ってある

サインファンとの懸け橋

部屋の壁にかけています。ただ、裸のまま飾っていたので、黄色に変色してしまっただから今、子どもたちにサインをしてあげる時に言っています。「帰ったらすぐにラップで保護して!」と。(笑)

大阪市が、アスリートを市立小学校などに派遣して、講話や実技指導を通じて、子どもたちの「夢」(目標)を育む「夢・授業」という取り組みがあります。私も講師として招かれることがあります。その学校から感想文を頂戴することがあります。子どもたちが鉛筆で書いてくれます。「サッカー・クリニックで教えてもらったありがとう」といった素直な文章ですが、丁寧に書いてくれた文字から、その気持ちが変わります。だから、感想文はいつも楽しみに読ませて頂いています。

私は前身のヤンマーを含めて、セレッソ一筋で18年間プレーしてきましたが、「優勝」を経験していません。これからも、サインや講話などあらゆる機会を通じて、ファンや子どもたちと心を通わせて、「夢」である「セレッソのJ1優勝」を追い続けます。

多川 俊映 氏
興福寺 眞首



たがわ・しゅんえい
1947年、奈良市生まれ。69年立命館大学文学部卒業。興福寺子院・菩提院の住職を経て、89年より興福寺眞首。境内の史跡整備に力を入れ、現在は江戸時代にある中金堂の再建に取り組んでいる。唯識入門「阿修羅を究める」など著書多数。

興福寺(奈良市)は、境内にある子院・二諦坊で、墨が初めて作られたという言い伝えがあり、書道と縁のあるお寺です。私自身、仕事の中で筆を持つ機会は多いですし、元々お寺と手書き文字には深い関わりがあります。印刷技術のない時代、仏教を学ぶ人は読みたい書物を借りて全て書き写していました。手で書くことで印象深くなり、それが仏教に親しむ契機になっていたのだでしょう。奈良のお寺でよく行われる「百日の行」というものがあります。如意輪観音様の供養をした後、護摩を焚いたりする初歩の行です。私も24、25の時に経験しましたが、次第本という行の仕方を書いたテキストを書き写すところから始まりました。手書きの力とい

学び深まる 書写の力

うのはすごいもので、今読み返しても、この時こんなことをした、お師匠さんはああ言ったという何十年も前の世界がよみがえってきます。今はそのテキストも市販され、すぐ手に入る時代です。手軽に学べることを否定はしませんが、手書きの力を実感しているだけに少し残念に思います。

お寺の持つ雰囲気がいかに、参拝の方も写経などで手書きに親しんでおられます。現在、2018

年落慶予定の中金堂再建のため、互勸進を募っています。瓦の裏側に文字を書けるのですが、皆さん楽しみながら筆でお祈り事などを書いてください。もちろん、お寺でもパソコンやメールは使われていて、若い僧たちはプリンタタッチで使いこなしていますよ。下手な字で書くよりも、パソコンで書いて印刷して、署名だけすればいいという考え方もあるようですね。でも、お礼状やお願いの手紙はやはり毛筆できちんと書きたい。読む人のことを考えながら、下手でもいいから手で書くことで、気持ちにストレートに伝わると思っています。最近、万年筆に再び注目が集まっています。最近、万年筆に再び注目が集まっています。最近、万年筆に再び注目が集まっています。

仕事を終えてから、好きな中国の言葉などを色紙に書くことがあります。ゆっくりと墨をすり、文字の配置や崩し方を工夫しながら書くのは楽しい時間です。気づけば無の心になつていきます。喧騒の時代に生きる私たちは、心を静め、無になる時間が必要です。手で書く時間を意識的につくり、心のオアシスにしたいと思っています。

家田 莊子 氏
作家・高野山真言宗僧侶



いえだ・しょうこ
日本大学芸術学部放送学科卒業。1991年、大宅社「ノンフィクション賞」受賞。2007年伝法灌頂(かんじょう)を受けて僧侶に。高野山大学大学院修士課程修了。高野山本山布教師。「女性のための般若心経」など著書多数。

「女性」をテーマに執筆を続けてきました。暴力、極端、エイズ、家庭。つらい境遇から抜け出せない人や、壮絶な人生を送っている女性がたくさんいます。そのような人々に直接会い、真摯にお話を伺い、文章にさせて頂いておられます。これまで約130冊ほど本を出版しましたが、原稿は手書きです。ワープロを使ったことありませんが、私の場合、機械で打ち込めば、機械の文体になってしまう。人様の、特に壮絶な人生を書かせてもらったので、心から、やはり自分の手で、心を込めて文章をつづることがふさわしいと思います。

作家になった当時からけんしよう炎がひどいので、筆記具にはこだわりのあり、厳選したサインペンを使っています。筆先が柔らかく、原稿用紙にさらさらと書ける。私の原稿は1冊に何文字も書いたり、余白に書き足したりグチャグチャです。それをアシスタントにパソコンで清書してもらいます。ルポですが創作は許されません。誤解はないか、ニュースはどうか。何度も読み返し、直すので手間はかかりますね。仕事柄、たくさんの人に会いまして、ご縁を結んだ人には心からの

真摯に耳傾けつづる

お札を伝えたくて、手書きで一人ひとりにお札状を書くようにしています。決して遠筆ではないのですが、大きな文字で元気な書け心が伝わるのではないかと。小学生の頃は書道の練習をしましたが。実は母は書家でした。映画「極道の妻たち」や単行本「修羅な女たち」の表紙の題字、私の名刺の文字も母の揮毫です。「家」の文字のバランスが難しく、私は苦手なのですが、母が書くとき美しい作品になる。払いや止め、特にかすれば、私にはないセンスで、ハッとすることも。書は芸術だと痛感します。

1999年に得度し、修行を積んで2007年に僧侶になりました。女性の助けとなる「三駆け込み寺」をつくりたいという思いからです。男性には話したくない人もいると思うのです。しかし、僧侶の世界はまだまた男性社会。その中に入っていくために階層を上げました。高野山大学大学院で学びました。修行とおつとめを重ねるうちに周りが変わってきたように感じます。

現在も作家業と並行して、高野山に駐在し、布教師として全国各地で講話や講演を行っています。修行は年中で、真冬でも水行はあります。石鐘山や富土山などの険しい山々に登る霊山行も積極的にしています。ライフワークとも言える、つなき歩き遍路による四国八十八ヶ所巡りは10巡目。体は酷使しますが、自分や周りを見つめ直す大切な時間です。

これからも体をケアしながら、作家として、僧侶として活動をしていきます。伝えたいことはまだまだありますから。

お札を伝えたくて、手書きで一人ひとりにお札状を書くようにしています。決して遠筆ではないのですが、大きな文字で元気な書け心が伝わるのではないかと。小学生の頃は書道の練習をしましたが。実は母は書家でした。映画「極道の妻たち」や単行本「修羅な女たち」の表紙の題字、私の名刺の文字も母の揮毫です。「家」の文字のバランスが難しく、私は苦手なのですが、母が書くとき美しい作品になる。払いや止め、特にかすれば、私にはないセンスで、ハッとすることも。書は芸術だと痛感します。

1999年に得度し、修行を積んで2007年に僧侶になりました。女性の助けとなる「三駆け込み寺」をつくりたいという思いからです。男性には話したくない人もいると思うのです。しかし、僧侶の世界はまだまた男性社会。その中に入っていくために階層を上げました。高野山大学大学院で学びました。修行とおつとめを重ねるうちに周りが変わってきたように感じます。

現在も作家業と並行して、高野山に駐在し、布教師として全国各地で講話や講演を行っています。修行は年中で、真冬でも水行はあります。石鐘山や富土山などの険しい山々に登る霊山行も積極的にしています。ライフワークとも言える、つなき歩き遍路による四国八十八ヶ所巡りは10巡目。体は酷使しますが、自分や周りを見つめ直す大切な時間です。

これからも体をケアしながら、作家として、僧侶として活動をしていきます。伝えたいことはまだまだありますから。

自分だけの字

第11回 手書き文字ばんざい!

書を通して手書きの素晴らしさを知ってもらう「第11回手書き文字ばんざい!」が、平成27年10月18日、大阪府中央区のOMMビルで開催されました。約340人が参加し、「人」をテーマにした文字を心を込めて書き上げました。



親子ら340人心込めて

大会は、平成27年の「第9回日本書芸院展」で魅響作家に選ばれた大田鵬雨・本院一科審査員の揮毫で始まり、参加者が見守る中、「信じる心は強い」と力強く書き上げ、「『文字は人を表す』といひます。上手に書くだけではなく、気持ちを込めて書けば人に伝わるという

ことを体感してください」と語り、会場からは大きな拍手がわき起こりました。続いて、読売新聞大阪本社、の橋本誠司・執行役員、本部長が主催者を代表してあいさつ。「パソコンやスマートフォン」の普及により、文字は書くより打つことが普通の時代になっています。そ

手書きの文字
写・書道って
すばらしい
れいに美しく
字を書こう
の美しさは
文化のパロメーター

れでも、漢字・ひらがな・カタカナという日本が世界に誇る文字文化と、手書きのぬくもり、味わいは大切にしたい。みなさんの力強い作品で会場がいっぱいになることを期待しています」と話しました。



吉川薫伸・本院理事長は「子供たちをはじめ幅広い年齢層の方が参加しているの

で、それぞれ自分なりの目標を立ててほしい。どんな文字を書きたいか頭に思い

浮かべて、そこに向かって筆

の使い方や書き方を工夫する

ことで他の人には書けない

自分だけの文字になるでしょ

人に伝わる



「う」と呼びかけました。参加者は、さまざまな書体で書かれた「信」「修」「とも」「なかま」などの文字をお手本に、おのおのの作品に取り組みました。子供たちは同じ文字を繰り返し書いたり、また習っていない文字に挑戦してみたり、家族や先生のアドバイスを受けながら思い思いの書き方で提出する作品を完成させました。作品と一緒に記念撮影をする姿もあちこちで見られ、会場は終始活気にあふれていました。

作品提出後、「第10回全日本小学生・中学生書道紙上展」と「第20回全日本高校生・大学生書道展」の優秀者による学生代表揮毫がありました。小学1年から中学3年までの各学年の代表1人ずつと、高校生・大学生の代表2人ずつの計13人が会場中央に集まり、一文字一文字丁寧に筆を進めました。完成した作品の力強さに、見守る人々からは感嘆の声が上がっていました。

記念品として全員に配られたうちわには、好きな文字を書いて持ち帰ることができました。また、会場後方の寄せ書きコーナーにはた

くさんの子供たちが集まり、「希望」「夢をつかむ」などのメッセージを絵の具やマジックで色とりどりに書きました。子供から大人まで、さまざまな形で手書き文字に親しむことで、その素晴らしさを実感できる備しになりました。

思い思いに寄せ書き



「第11回手書き文字はんざい」の作品は、平成27年11月13日から15日まで、大阪市中央区のNHK大阪放送局1階アトリウムで展示された。3日間、326人が見学者。会場には親子連れの姿も多く、「筆を持つ強い気持ちがある」と話していた。

NHK大阪でも展示



自然と伝わってくるなどの感想が聞かれた。学校行事で放送局の見学に訪れ、同じ中学生の作品を目にした女子生徒は、「幼いころに家族で書き初めをしたけれど、もっと上手な字を書きたいと思った」と話していた。

参加者の声

大阪市西区の小学1年、小瀬智(とち)くん(7)は、姉の珠乃ちゃん(9)と作品を見せ合いうまく書けるか競争した。自分の名前『とも』『仁』という字がお手本にあってうれしかったのでがんばって書いた」と話しました。大阪府貝塚市の小学6年、谷家安純(やす)さん(11)は今年で3回目の参加。「年長から書道習っていて、思ったときに字に出せるようになったのが面白い。これからも続けてもっと上達したい」と

今後も続けて上達目指す
3歳の子も飽きず楽しめた

目標を話しました。書道教室を開く祖母のすすめで両親、弟2人と初めて参加した兵庫県伊丹市の小学4年、矢野未希(みき)さん(10)は、「『人』という字の揺るところが難しいけれどうまく書けた。寄せ書きで大きな字を書いたのも楽しかった」。母親の真由美(まゆみ)さんは、「一番下の3歳の子まで、飽きずに楽しんでいました。筆を持ち文字を書く、子供たちの違った面が見られて親としても新鮮な気持ち。家族で参加してよかった」と振り返りました。

- 【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
- 【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、NHK大阪放送局、読売テレビ
- 【協賛】あかしや、大阪市教員会館、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、べんてる、墨運堂(50首順)

豊かな感性 みずみずしく

日本書芸院と読売新聞社が主催する「第10回全日本小学生・中学生書道紙上展」(平成27年・2015年)は全国から1万7531点の応募があり、各学年の優秀作品「ベスト100」「準ベスト50」が選ばれた。また、「第20回全日本高校・大学生書道展」

(同)は4部門に計1万1034点の応募があった。最高賞の同書道展大賞に60点が選ばれ、同展賞322点、優秀賞615点が決まった。3賞入賞作品は同年8月18日から大阪市立美術館(大阪市天王寺区)で展示され、最終日の23日に授賞式が行われた。

第10回 全日本小学生・中学生書道紙上展

【審査】
日時 平成27年(2015年)9月21日(月・祝)
会場 OMMビル2階 会議室
審査員 本院理事長・吉川薫仙、本院副理事長・黒田賢一、真神麗堂、今村桂山、高木厚人、横山煌平、読売新聞大阪本社執行役員事業本部長・橋本誠司

【選考内容及び賞】
一、全作品から各学年優秀作「ベスト100」「準ベスト50」を選び認定証を授与。
二、図書カードは各学年「ベスト100」「準ベスト50」受賞者に贈る。

三、ベスト100受賞者作品を掲載した小中展新聞を出品者全員に贈る。

【成績発表】
11月中旬。読売新聞紙上及び本院ホームページにて発表、12月中旬各代表者に成績通知を郵送。

出品点数 1万7531点

学年別出品数			
小学1年生	913	小学2年生	1715
小学3年生	2481	小学4年生	2643
小学5年生	2765	小学6年生	2653
中学1年生	1595	中学2年生	1623
中学3年生	1143		



小中展の審査

第11回 全日本小学生・中学生書道紙上展(予告)

【作品受付】平成28年(2016年)8月31日(水)締切 ※同日消印有効
【出品資格】小学校・中学校の児童・生徒(平成28年8月31日作品受付締切時) ※代表者の住所は日本国内に限る
【部門】小学1年生の部から中学3年生の部まで、各学年を部とします(9部門)

【出品料】無料
【紙の大きさ】半切(はんせつ=タテ135cm×ヨコ34.5cm)
【主催】公益社団法人日本書芸院・読売新聞社
【後援】文部科学省(申請予定)

■作品応募要項の詳細はホームページでご確認ください。http://www.nihonshogeiin.or.jp(4月以降)

ベスト100受賞作品を掲載した小中展新聞を無料でお届けします。
希望部数を日本書芸院事務所までお申し込みください。
(新聞代・送料とも無料)

第20回 全日本高校・大学生書道展

第21回全日本高校・大学生書道展(予告)

【作品受付】平成28年(2016年)6月15日(水)締切 ※同日消印有効 必要資料をご請求の上、作品とともにお送りください。
【出品資格】高校・大学等の在籍者など中学校卒業以上25歳までの学生あるいは進学準備中の方(平成28年6月15日現在)。 ※代表者の住所は日本国内に限る
【会期】平成28年8月16日(火)~21日(日)
【会場】大阪市立美術館 地下展覧会室(天王寺公園内)
【主催】公益社団法人日本書芸院・読売新聞社
【後援】文部科学省(申請予定)
◇陳列 大賞・展賞・優秀賞を陳列します(約1000点)。
◇授賞式 展覧会最終日に授賞式・祝賀パーティーを開催します。

■作品応募要項の詳細はホームページでご確認ください。http://www.nihonshogeiin.or.jp(4月以降)

大賞作品を掲載した高大展新聞を無料でお届けします。
希望部数を日本書芸院事務所までお申し込みください。
(新聞代・送料とも無料)



高大展の授賞式

団体賞 高等学校の部
最優秀校 岩手県立福岡高等学校(岩手)
優秀校2位 奈良県立桜井高等学校(奈良)
優秀校3位 大分高等学校(大分)
第4位 岩手県立盛岡第一高等学校(岩手)
第5位 明誠学院高等学校(岡山)
第6位 盛岡市立高等学校(岩手)
第7位 岩手県立盛岡第四高等学校(同)
第8位 岩手県立水沢高等学校(同)
第9位 東福岡高等学校(福岡)
第10位 鹿児島県立甲南高等学校(鹿児島)

団体賞 大学の部
最優秀校 京都橘大学(京都)
優秀校2位 大東文化大学(東京)
優秀校3位 奈良教育大学(奈良)
第4位 岐阜女子大学(岐阜)
第5位 四国大学(徳島)
第6位 中京大学(愛知)
第7位 立命館大学(京都)
第8位 帝京大学(東京)
第9位 京都教育大学(京都)
第10位 花園大学(京都)

【審査】
日時 平成27年(2015年)7月13日(月)
会場 マイドームおおさか 1階
審査員 読売書法会常任総務・新井光風、榎本樹郎、本院理事長・吉川薫仙、本院副理事長・黒田賢一、真神麗堂、今村桂山、高木厚人、横山煌平、読売新聞東京本社取締役事業局長・河田卓司、読売新聞大阪本社執行役員事業本部長・橋本誠司

【審査結果】
個人賞 全日本高校・大学生書道展大賞 60点
全日本高校・大学生書道展賞 322点
優秀賞 615点
準優秀作品 3115点
優良作品 6922点

出品点数 1万1034点

○種別	
第1種	6988点 (2×8、2.6×6、4×4)
第2種	3875点(全紙、聯啓)
第3種	171点(篆刻)

平成27年 全国シルバー書道展

思い 雅やかに表現

高齢者世代に筆を持つ喜びを生涯持つてもらおうと、平成27年の「全国シルバー書道展」は広島(特別で平成26年12月に実施)、奈良、大阪など西日本2府7県で開催された。隔年で行われる和歌山展も開催年に当たり、多くの書道ファンでにぎわった。出品者の男性最高齢は広島展の99歳、女性最高齢は岡山展、兵庫展の103歳だった。各会場では、生き生きとした筆遣いの個性豊かな作品が、来場者の感動を呼んでいた。今回は古都らしい雅な筆が根付く京都展を紹介する。



来場者でにぎわった京都展

健筆光る 多彩な作品

(京都展)

第28回京都展は2月27日から3月1日までの3日間、京都市中京区三条高倉の京都文化博物館5階ミュージアムギャラリーで開催された。出品者は381人(男性77人、女性304人)で、平均年齢は76歳(男性79・29歳、女性75・22歳)。85歳以上だけで45人を数え、その健筆ぶりが

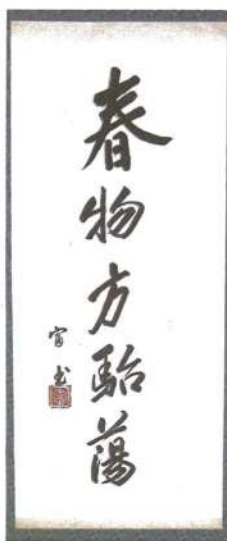
光った。会場では、出品者が住む市郡別(京都市内は区別)に作品が並び、知人の作品を探して鑑賞する人たちの姿が見られた。京都は、伝統文化としての書への関心が高い土地柄。出品者の中には本格的な指導を受けている人も多く、格調高い作品が並んだ。

男性最高齢96歳の橋田富太郎さん(中京区)は、中国5世紀・六朝時代の詩人謝朓が、のどかな春の風情を詠んだ句を漢字5文字で「春物方駘蕩」と、伸びやかながら丁寧な筆さばきで書いた。女性最高齢97歳の水谷小夜さん(伏見区)は漢字とかなを交えた調和体で「よし野にて 桜見せうぞ 檜の木笠」と流れるように書き上げた。松尾芭蕉が「檜笠よ、これより吉野

に旅立って、その名高い桜の花を心ゆくまで見せてやろう」と詠んだ俳句。春の訪れを感じる会場にふさわしい作品に、来場者らはほつくりと見入っていた。

このほかにも、論語から引いた「温故而知新」や、それぞれの文字に思いを込めた「百福」「遊」、般若心経など、味わい深い作品が並んだ。

主催した日本書芸院の常務理事で、京都橘大学文学部助教の尾西正成さんは調和体のほか、かな、楷書や写経など多彩な作品が集まりました。全体には、京都の風土に培われた雅な魅力を感じさせ、長く書続ける人々にとって目標となる展覧会になったと話していた。



◎芭蕉の句を題材にした水谷小夜さんの作品
 ◎六朝時代の句を書いた橋田富太郎さんの作品

第28回広島展	1月5～6日	広島県民文化センター
第29回大阪展	2月9～14日	大阪市立美術館 地下展覧会室
第29回三重展	2月18～21日	津リージョンプラザ
第29回京都展	2月26～28日	京都文化博物館
第29回滋賀展	4月23～24日	大津市歴史博物館
第28回奈良展	5月20～22日	奈良県文化会館
第29回岡山展	10月19～23日	天満屋岡山店・葦川会館
第29回兵庫展	11月1～3日	兵庫県民アートギャラリー

※和歌山展は隔年開催

伝統と創意

公益社団法人 日本書芸院

■ 展覧会

- <日本書芸院展>
 - 日本書芸院社員相互の共励琢磨による「書」の本質的研究を通して、後進の育成に尽力しています。
 - 日本書芸院展(役員・役職者展) 会場:大阪国際会議場(大阪市北区)
 - 日本書芸院(四月展) (六月展)
 - 会場:大阪市立美術館地下展覧会室(大阪市天王寺区)
- 特別企画展・海外展
- <その他の企画展>
 - 小学生からシルバー世代まで、全世代を網羅する書道展を開催して、書の啓蒙と普及、我が国文化の継承・振興・発展のために活動しています。
 - 全日本小学生・中学生書道紙上展 読売新聞紙上および小中展新聞紙上
 - 全日本高校・大学生書道展
 - 会場:大阪市立美術館地下展覧会室(大阪市天王寺区)
 - 全国シルバー書道展 近畿2府4県および三重・岡山・広島県で開催

■ 講習会

- 記念講座
- 教養講座
- 「手書き文字ばんざい！」(文字・活字文化の日記念イベント)

■ 出版

- 作品集・図録
- 会報
- 研究誌・記念誌
- 広報紙

広報紙「書くよろこび」を無料でお届けします

「書くよろこび」は、書くことによるよろこびや楽しさを広く一般の方にアピールし、書写書道のより一層の振興と発展を目的とした無料の広報紙です(年1回2月発行、50万部)。書道教室や部活動、展覧会場など、書や文字に関する様々な場面で配布、活用していただいています。送料無料でお届けいたしますので、ご希望の部数と送付先を日本書芸院事務所へお申し込み下さい。お待ちしております。

■ 沿革と概要

- 昭和21年(1946年)11月創立
- 昭和22年(1947年)5月、社団法人の認可を受ける
- 平成18年(2006年)創立60周年を迎え、平成22年(2010年)6月に公益社団法人制度改革により、内閣府から公益社団法人の認定を受ける
- 現在、北海道から沖縄まで全国に約1万3千人の社員を擁する我が国屈指の書道団体であり、社員の中から、文化勲章受章者3名(故村上三島、故杉岡華郎、高木聖輔)をはじめ文化功労者、日本藝術院会員、日本藝術院賞受賞者、日展や読売書法展など全国規模の大公募展の役員・審査員を務める著名な書道芸術家を多数輩出しています。
- 毎年、公募を含めた書展や企画展、各種の講習会・講演会を開催しています。



私たちは児童生徒一般すべての人々の書写の環境を整え、豊かな心を取りもどすため総力をあげて「手書き文字の振興」に取り組んでいます。

- 一、日本の伝統文化芸術を守り育もう
- 一、すばらしい日本語の心を伝えよう
- 一、心を映す文字をより大切にしよう
- 一、書く楽しさ喜びを通して健やかな心を養おう
- 一、美しい文字で潤いのある豊かな人生を送ろう

豊かな心は手書き文字から

寄稿

文部科学省
初等中等教育局長

小松 親次郎 氏



があります。パソコンやスマートフォンなどが普及する中で、近年、若者の間では万年筆が静かなブームとなっているのも、このためかもしれません。文化庁では、毎年、「国語に関する世論調査」を実施していますが、平成26年度の調査では、「年賀状などにおいて、印刷されたものと手書きが加えられたものとはどちらが良いと思うか」という質問に対して、約9割の人が「手書きされたものや手書きがひと言加えられたもの」と回答しました。また、「文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきである」と約9割の人が「手書きされたものや手書きがひと言加えられたもの」と回答しました。また、「文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきである」と約9割の人が「手書きされたものや手書きがひと言加えられたもの」と回答しました。また、「文字を手書きする習慣をこれからの時代も大切にすべきである」と約9割の人が「手書きされたものや手書きがひと言加えられたもの」と回答しました。

見直される書写 日本文化に大切

万葉研究の大家に伺ったお話です。ゼミ合宿で一首一首、毛筆書写する時間を取る、考察が深まることが多いそうです。手書きには、文字の配列という以上に、「文字ずつの丁寧な形作りを通じ、内面に働きかける力があるのでしょう。筆墨だけでなく、例えば万年筆にもまた、独特の味わい

文字・活字文化振興法の骨子

【目的】

文字・活字文化の振興策を推進し、知的で心豊かな国民生活および活力ある社会の実現に寄与する。

【基本理念】

国民が等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を受ける環境を整備する。国語が日本文化の基盤である

ことに配慮する。学校では「言語力」をばぐくむ。

【責務】

国や地方公共団体は文字・活字文化の振興策を策定し、実施する責務がある。

【地域での振興】

市町村は公立図書館を設置する。

国や地方公共団体は司書の充実など人的体制を整備し、資料の充実を図る。学校図書館を開放する。

【国際交流】

文字・活字文化の海外への発信を促進。翻訳の支援をする。

【文字・活字文化の日】

国民の関心と理解を深めるため、十月二十七日を文字・活字文化の日とする。